

JA 全農 ET センターニュース平成 15 年 9 月号

胚移植を積極的に活用されているユーザーの方々の取り組みを紹介させていただきます。今月号は乳牛胚の ET ユーザーを特集いたします。

1. 「JA ぶらの管内：三好牧場の ET 活用によるアニーファミリーの形成」

平成 3 年 11 月のカナダで開催されたローヤルウインターフェアのセールでアニーファミリーの基礎牛となったロンナン リードマン アニー ET 号（現在 EX-91 点）を未経産 7 ヶ月齢で購買し、導入しました。その母牛は当時、蛋白成分で第 1 位のインデックスを持っていることと、父がリードマンであることを選定基準にしました。その後、積極的に胚移植を活用し、2 頭の ET 娘牛・また孫 1 頭からも乳量 20000Kg 突破牛が作られています。これら 3 頭は全て EX であり、能力だけでなく体型においても優れているファミリーであることが証明されています。またアニーファミリー牛群の後乳房付着の高さには驚かされません。現在ファミリーは 100 頭を越え、採卵、胚移植、OPU、性判別技術をフル活用して短期間でアニーファミリーが形成されました。また基礎牛の息子である RCA アトロン ET 号は国内生産種雄牛として、現在活躍中です。国内での受精卵・個体販売も進展中ですし、計画交配による種雄牛候補の作出もたくさん行われています。三好さんの ET 技術に対する要望としては「胚性判別技術のさらなる普及」また将来の夢は「アニーファミリーの受精卵を米国に逆輸出したい」とのことです。

2. 「JA 豊頃管内：井下牧場の胚移植活用による平均乳量 14300kg 牛群の形成」

平成 8 年度の MOET 事業で導入した CMV マスコット マイカ 号 × ダスター による輸入受精卵 5 個から 3 頭の雌後継牛を作出しました。その 1 頭であるアイリッチ ダスター V マイカ ET 号は今年 4 産で乳量 20000Kg 突破が確実な状況です。また、別ロットの輸入卵から生産されたアイリッチ ルドルフ エイダ ET 号も 4 歳乳量日本記録（305 日：20755Kg，365 日：23688Kg）を樹立しています。さらに、友人達（幕別町：山田牧場，札内：中村牧場，大樹：太田牧場）とのシンジケートで導入したハノーバーヒル エアロライン リーン ET 号 も 4 歳 365 日乳量 21043KgF4.4% で乳脂量日本記録を樹立しています。これらの基礎牛から採卵・胚移植を拡大して、一部受精卵ならびに個体販売も行っています。現在までに 20000Kg 突破牛が 8 頭、今年樹立まじかのものが 2 頭と搾乳牛 40 頭規模であっても驚異的な平均乳量（2 年連続日本一）を維持しています。牛群全体の乳房容積の大きさには目をみはるものがあります。給与するグラスサイレージの品質等へのこだわりと同時に遺伝的改良の成果がここに現れていると感じました。井下さんの ET 技術に対する要望は「今後、雌雄分離精液を用いた未経産牛の採卵を広く実施できれば」ということです。将来の夢は「規模は小さくても、やり方しだいで個性的なこのような酪農経営もできるということを実践の中で、今後も証明しつづけられれば」とのことです。